△松風　十二　哥ト詞ニテ各、原ホ文ノ秋比ヨリカケリ

ひんぎしの院たちうり給ふ里と文
をうらけるをうり給ふいわくどのか
とうそまごころはけいしかとなるべきさま成
ゆゑをもれひんぎし　政所　家司
とおがしとさそうわ水れるいとよ
ひろくたくらを給てわのてし食と覚
してはをゆをてうちざわしめ給しへ
ぐたどひそしべきさま成よ為ぐてく
ゆゆをもれてうしもるつしう又所
まそこ成かなり　原ハ体ニ所ヲトル　アカスヲ　末橋空蟬ナシ　原ハ思ヒハナチ玉ハ又故ニ　カヒドハ光ハ六条院ニ一ヶ月ノ所ニ入レメ玉ヒ　入ヘセモラ　原ホ文ノ秋比ヨリカケリ　二条院ノ東ノ三ノ町壺崩御ノ後ソウブシノ処ヘ

角田氏藏書

時くわるゝ所はれ（原）やそこ所にしてさんくるこか
ふれいとうてひとしこゝをとゝ所なりてのしまい
れ（原）ぜうそこうしばらく海はいれのがわれぬべき
ことゝはの所へどめしこと（原）れ所方れ所とこい
ろよこゝなくやんごとなきさこと（末橋元敏）人
ぐうゝゆきさてそみとうれぬれ（原）所わさ
ぬのつしあさをこつぬこひ海さわべく
さくこと（原）ぬしてゐにだるれ苦（イセイノン）なうとそう
こ出まどらんはれ（ハネ所ヲラズ）わう苦れ（ツラヨゴシ）れ所りそぶを
ようぞあるぬ方れ所とそわうこれめう海は
うゝひ（原）わうわ所つぞとまり（ツレ）つとうそ人

ゝうよとうこなきこというゝ所ゝんとこひ
こうぶれてもまうこさうわとてうゝ所（仕事）よあひ
出（原）ぶ（原）ぞまゝへらし所ゝしざゝんし（仕事）いと長ありしだ
ひこそうもえう（明石ヶ浦ヶ上ル（キ尼イナ尼ヲ）ヲ定）ゝこそひうぞ（人名）ありやゝち
しげよとゝうわとこうげくよ中心
たこさこてぬ（ヒ）ひう（ハ）母（ハ）ものれあ（ハ）ら中（眼明阿子）
中務ノ帰京ノ歌ト山庄大井川ノ辺ニアリ小倉宮ト云領
ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ大ゐ河の
わうわよをうをそれ（ハ）のらゝ（キハリト）ぐこて
なひひつゝ人もなくて年ぬれまどゝ所
（人名ノ筑母君）こゝいでゝうれ所ゝわ（ハ）たゝうわてやどし
ゝのやうそなる人とうびうわてゝ

世中とい四えとこそ風もはぬよ
ちづしそめしうどしもそ来れせよこふけぬこ
と出さてなんさうしよ加のもしかもとを
ほと鉢はまだゆうしく人かいとろしこく
力中びよりろ心ら山しちづうなるものさ鉢
かるさ百うこてとなんこうさうべさぬ
しなげわるさん修理わかどしてうきれと
人をしぬべくしたくろひかれんやとこ
なづうるぬうしびらぬ煩ぞろ人もぬしれしぞ
なやしきやぶよるありてはれぬ下屋ハ雑舎ノ
たくろひてやどわはをひをれはちり

小野宮左府記、永延元年八月十八日、法橋上人位奄然申請テ云、双愛太子山号五基山大清涼寺建立一伽藍置白檀釈迦尊像奇怪、入唐メワタシ奉ル仏也、又李部王記、天慶比栖霞寺釈迦堂ト云セリ、アリシ清涼寺ニ堂ヲ建テ釈迦ヲ安置スト云、

栖霞館トテ左大臣融公ノ山庄ノ後ノ寺トナリテ栖霞寺ト云今ノ清涼寺ノ東ニアル阿弥陀堂是ノ心

内の原の霞のたちかくせれ堂らくてうれ
わるわなんいと人げさしてうなるわそ
はるひうさうさ古堂どしてかくれ人
みんたちいとかしはめうこづうなるれはい
みうこそれやなどひはうしなのようれし
うれこの原のたけはようくうこ心はかるいとと云
とのづくをひくようられことぐもいしてん
まうづいそぎて大うこれことをぬせよとい
ぬ宿りは名づくらるべる所よはぬ鼎静心ものと文をうつる
へ流人しなけれぐうこりるなるくひそて年
ぬくろへはけるあり。市庄ハ市領ニヤこさくの田をくける

愛ニト云ハ道内儀
ノ事ヲ云ニヤ 長梅

どうとれてこそ
あれ侍らば故氏ア
[illegible]
大情の[illegible]より
てさぶべきぬかど
てあんら[illegible]
田畑ヲ寄寺ガ領ニ先トシ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

思ふこゝろはいけとるくいろひたいく海
つゝ人なれぬ（なれ）ばたゝ（たゝ）ちてさうべきさ海よ玄
しこのよう（カツテヨキヤウニ）いうどきをせ流れ（堪光ノ）ゆ（ゆ）ゝ
かうして海（カ浦）づれ（仮）うひゝ（ひゝ）所のさ海よ
なんはるゝとまゆし（思）ぐさやうれ北海外よ
（光ハスキモズシトル）うるくらぞいをぬべ（べ）しとあば北たく
らを流れ（忠仁公）ぞ（心）寺れ南よゆゝ（ゆ）
て流ぐこの心ぐ人なるどゝとゝぞ面白き
寺なゝ（大井ノ次）そ川づゝよえしいをぬ松げよ
かよれ（歌ノ）ゝ（ゝ）ぬしるくしてゝうゝんでんのこと（ソウセルラシ）
そぐしゝうさ海しをのづゝ山里の義とゝ義

（露ナラズ心ヲ託ニ言ツメテ風吹コトニ物暑ソハリ）

質之

ゝうゝられ（迎）ゝそひかどまぞ（ゝ）ゝ（ゝ）よ氣
ゝゝき人ぐゝうゝう（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ

花さくのこゝろうるしなれどうひろん
かれてあるべしとのこゝろ（クリコトバヨリ三トウ）だわり者を
どんなまでいはるべきうといふよりわかれと
なく毋（元者）ゝ思ふいうべう食なるわ弁ぢゝよお
ゆいわるもそもそもぞうけとられつれど
まてるれはうわてうはげそでまんで（金ノ毋ノ方ニ）
ばこのうらうらうるうるこゝろひ
ぐるみなれそなれてわるる狂ゝ（ヲモテ会キ）
ざしかうとまて（金ノ異相ナレテ一ウ云）もそひぐあゝうらつさ（思ツキ）
心をさそそうのりげなけれど（支婦ノ間ナバアル世ノ限ハソ）（ハテ一ト思ト）
うこうれそはせをうきうべさそとうあわ

（六十五）

れどなわそてぬ命をうぐさわるこてらぐ
つをうぐしさうを紙はりもるれなんし
心がそしわ（四条上ノ女房）ゝさこ人どのいぶをうぶ（ボラニコトシンゼモトナノ）ぞをつ
ふこうれうきわしうんそてぐこゝこ後の
さ後を文（生房達ノ）をえうしもうらうとよそうは
よそへて袖ぬれがらうう秋（九心）れひるれば
ぬの衣うわうう四らしてそ（京（上九日））れ日とあう
嘆秋月をぐしくて出のもうわへぬ
ゝ海のうをを（四条ノ）ゝ出てぬうゝ入道何の
ご茶（後衣ノ行ノ時分ノ）わうう（嘆ニ）おさてをかそつをうこ
てをこるいわまうしうゝうぐうことゝそ
（九ぶりノメデノメキミコトシイメドモ別ナバ間トゝ）

平見文
アリ行文年二ツニノ程バカリ
ウキコトシゲクタモハズモガナ

夜光玉ハ卞和ガ玉モアリ
又楚王ノ臣隨侯ノ病ヲイヤシテ蛇夜来テ
七寸ノ玉ヲ含テアタヘキトコ
レヲ則楚王ニ献ス夜光
ノ玉トスベシ 史記

ぬしどうれもくとあびごしわうぎは
ともしくうつしげはようひろんを
心らして袖ものかよもあらずぎりつ
とうあ（金ヲ飛君ノ則ル）てまつらし弦て心ざ海みどゆ（ハユウルシヤ カメシケナキヤ）
ちきまでくくよこぐうあを海くを
くこみぐうこみみをしていぞうをぐ
んとをんとけくこあへぞ
（金ヲ姫君）けうさをを（長久ニ）よいのう別ちよよん
ぬしおいの泪ちうしたわいとしゆくしやて
をのごひくをあまぎ
（尾ニ）りうもよ旅（青コヽハ下向ノトキハ金ト）ていきしびや結ア

（モトキンルカト云フ）
ぎゆのをよまどとんそなさ海
いとこをうりこ（尾ニ）ら（道ト尼）契うをてつり
ぬる年月の花をこへ（京ニカリヤを何トカアラント思フバウキ名タノミトし）うさうろと
とうのうてをてせようしこへじしら
なしや（加ニ）ぬ
（黒キ行トン玉リ金ニ）いきそのあひうん
もをぬ世とばうのまんとをいつとそうかぎわ
よの（黒ノ）浜へどうこぐよ（逢深形ト云シ光ト云シ）つけてえさうまぐさ
うをひつざす（ヒビ文）ぐよをれ羽もいとう
ろうろうこけしさ（金ノ羽）世中ををそちで
ちようろうへ（他国）くほうこぶうろ海ことし

こで　ゑのけ（ゆかり）　あん
づさし　心よりなく（文六大臣ノ家ナドを受領ニナリテ情ナク人ヲ下リシテ）　やもめとゑ　ゆへ　ま
うど　ゑ　のつくこ（他国ニ元ヲ人ニモチイテ元ヲ京ニ仕ハシテモ京ニ帰ラヌトシ）　ゆ　わ　ひ　さ　ものゑ
ふことおほ　わし　うぶさ　ま　よ　ゆ　て
ゆ　ぜ（受領）　ら　の　ゑ　づ　ゆ　た　ひ　て　ま　ぢ　れ
家のよもぎ　ひ　ど　も　と　れ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ひ　こ　と　し　ゆ　さ　ぬ　し　ま　け　わ　こ　う
よ　と　こ（ヒロウ）　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ゆ　き　う　げ　と　ろ　づ　う　し　ゆ　と　の　い　う　ど　ま　か
じ　や　そ　せ　を　そ　て　つ　う　ど　ぞ　ま　う　ゆ　わ　と　ん
よ　し　き　て　れ　す　し　と　そ（サラソムリ）　の　ま　ま　よ　つ　け　て　い　る

う　ん　え　か　ら　そ　ぐ　ま　ま　わ　と　ん　ま　う　よ　ゑ（ゆかり）　の　や　う　く
ゆ　と　す　び　ま　ま　い　ま　ま　し　ま　ま　ま　べ　き　よ　ん　て
る　ど　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
う　ま　ま　ん　と　心（ヤン）　の　や　し　そ　れ　ま　ま　く　な　げ
き　わ　わ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　わ　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
れ　い　わ　わ　れ　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
と　し　の　こ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
こ　ど　も　と　め　ま　り　そ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
こ　ま　ま　う　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
わ　ら　ゑ（姫君）　の　う　う　そ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

三途トハ地獄餓鬼畜生ヤ修羅ヲ加ヘ四趣人天ヲ加ヘ六道トスル　経文ニ生天隨ノ三途ノ天ニ生レンモノアレノレテ三途ニウチ又一時ニ天ニ生ルヽコトアリ

世中ニサラヌ別ノナリセカナ千代モトイフル人ノコヽロヲ

のこりすくなうなりさうなる月日をすぐしなんいとうらめしけれども歌こそよおぼしなげくべかめれさらん心まどひにたるめがさるれとも生涯をかぎりなくせをとてし給べきひとりとゝまりてもたゞしうるはしくせをとてし給べきひとりとゝまりてもたゞしうるはしくせをとてし給べきひとりとゝまりてもたゞしうるはし

をへて人うさをよ人(ミヤロビ)もれぬつきぜぞなのま
ぶいなるさ波
尼素(ニソ)　北浦ノ松島ノ枝岸トカモシ　尼ノ海士ニヨタリ　思ヒヨラヌ方(アナト云ヒ)
うれしきよ心ちあまの海士ニヨタリ　なのまぶのそひさ
しうこそよこざうこうれ(ハヤ)ぬ
(ハヤ)年ニ　いくとしゆきこうの秋をそぐつうさ　(松シ云ヒ憂心アリ又添心モ
まるのりてわきこうこんぶこうれ凡て　明石ノ方ノ　シラヌバウキメ心モアリ
うざわりの日たぐへぞいわれぬ人よみとがあ　京　女車ナト
ぶりの心もあれぶ乃(ノ)ね上八車ニテ凡伴ノ子ノごとし　ろうきを
あしうの家(大井)のさ海しありうして年ぶ　火ニ
屋つう海づうよ見しうれぶ　似ル心　明石浦ニ　亦人ぶうの心ら
しぜぞ者のことを出れて長ケうこと有

(北慶惟光ガ)
うわ乃ぶ(ハ)うそ人ぶうらうみどゆへ有うき海よ
水のるうれしおううこうのうこうまぶこ海
やうなうにいうこうひどそこいうぶうさてしの
尼ぬぶ(ハ)しうこうけいしまおぶを波て
はまうけ(月きこ)のことをさを波乃わうわ波(ハ)ん
といこうこう見うたぶ(業ノ)乃ぶ日ぶへぬ中(恋)
くぬうでけうらうてそて家(ハスノ)ぬし恋し
うぶれぐうれ(ハ)れぶうれ(ハ)れぶうこみのさんとうさ(ハスノ浦ニテ)
ううれ(ハ)ぶれ(ハ)いうぶうう恋びぐこ乃れぶ人(コヽニテ)で
なれうこうこうう(ムヤスクニ)とけてそうこひくよ
れ凡うたうくひぐさのひうわのまぶ

地づなしげくてうわの空にあさのが
はて、
尼ノ文ハナリ
分をうへてひとりの人れる山里よ宿
よりこそ松風ばかりてくれにけり
原ノ意 京ニテ生レテ三歳バカリニテトリ出ゴロニ世ノ友トハイハレズ但大道ノ下トシ
琴ヲヲヲメリトクサヒヒヒヒトリシハワノヒキモチトシ
ことをとうれりうくらんうやうよめとうくて
原心
のしくらそよあとぐ中こそづつ思ふくえ
ヒヒヒキン
きれど人めとしえもぐうわの人れぐわ
大井
ヒ行とせ君よハうくなんとうしよとうせ
ありれいぶわけるを御のさてもやのをし
行とてせうそこ来し行原月うしうへきと

行をいかゝ心よしのでは後へよりうこうう
ちうとひしへ人うれるうらくさるて
まうるれを心づるうくてうんさがのれぐう
もうるうわなうさ伝のれとうひ出べれい
三ヒウゴニセヌ
三百と行りうんと実行れ尾とて
原心
原ノ意
原ノ意
而俄はたしうせ行とさくいそこよ出へ行う
原月
まうと覚そよ心づうなけれぐとのえは
キヒトリニ
へのうくうあ行ん行や行ごをよと心ゆねは
ヘトヒニシ
カヒニセヌ
こさなうあ何の人べうるうさ流心うい
原月
原ノ世ヒ今ハヒシトヒ世人ヒヒヒノヒトシ
けれ何わさ後行行なりしと世人しまか
ヒノん
原心
原心
原心
原心

イヒシヘハヒシヒモヒヌヒヌヒノヒエノ
杉し所ソ慈シヒリケル
ヒリエハ杉ナバ又モツケケン
深世ノ中ヒカヘラズモカナ
晋王愛石室山ニテ一房ノ
巻ヲシメンヒ
世中ハクラヘルシリ風ニケリ
ナカクミシカリ果フスキナシ

日ふけぬ夕べのやうよが前うとさいまぜでれ
心づひしてわすれぬ（原文世）それはよおり
つきうわれぞよやつれ（原文ノ）ぞよ
せよ（世上ニナキ心）ぬ心（原文心）らせしをまてさうれ心してひ
きつろひ（シツキ花大ニヨリ云カ分ハ不見）へつれなとせ（原文ノ）ぞ世よろく
なまよ（ユウビニ）うまよどゆき心らそれ（原文ニ既毋心）ぞんじ
びつる心のやしもるやうあわ（原心）めづしう
衰えて（ワカ）わう者をえ流しいぐのうくいあばさ
りん今まで（クイヒナキ）食そ（ムキ）るう月ごよのさ海
きくはやしきまであばせ大（左ニ紙ノ）ごの者
をうろげうとせ人もてさぐいれ

山口トハモノノ始ヲ云伊勢ノ造宮ノアラントテノ十月ニ山口祭アリ神入ノ始シ又雅楽ニモ云

はまれで人のみかせなわらくそせ
ぐれうえれ山ぐら（モノハシメノ）いとうわられとうを
こうかのなよ心なきがいぐやうつき
白ひうをいうぐ（スヤウイ）うらうとえそめと
れうぐわしあて（ものの支チクウミえ化し）ぐわしうこう孫
びきうれて月ごろあれわ泡ゐどなれ実ゆ（母ノブリニテノコシ云アカニテノコシ云）
を衰ようろかやのうこうよそぐつん
とを学の孤（原月大井之）ようしと墨ぐかれてわ（原ノ）
こんともうこうを行れかいあり所
うけろひ孤人との孤へど（源月）いとうのくきさか
どそぐてと実ゆるしこと（原心）こうあり衰ひ

こよのろぐ　ちぎりうつひのし　ゆつくろ
（大井ノ宿ノ）
ゆべさ　あごの　ゆづわ　よくしらへ　らけ
（其家ノ司トシテノ）
ゆどよ　ゆ　ゆ　せ　る　ゆつの　院　よわ　わ　ゆ　べ
（業平桂宮院ト云寺ノ辺ノ西ノ方）
しとわ　ら　れ　ら　ら　さ　ら　ら　れ　人　ぐ　ま　り
（中在）　（桂院ニ）
ゆつ　ま　わ　ら　わ　ら　ら　も　ま　ゆ　ま　ら　わ　ぜ　ん
（大井）
ぎ　い　ど　も　れ　わ　れ　わ　ゆ　ら　ら　か　ど　け　ら　ら　を　ゆ
（原門）
家　し　こ　の　そ　て　て　ゆ　ご　も　ま　ま　ら　び　う　せ　ら
（スキテ）
を　な　ま　け　わ　て　を　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（苔井ノ之ニハ）
ま　ま　ま　を　わ　ま　と　け　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ナカクイキ人ハ）
ま　わ　ま　な　わ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（羽蒲ニテ泊リシ也ト）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

とのこ　ぐ　ま　の　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（イラスケ）
け　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（原）
う　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ナヨシナヒニ）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ダテラシキテ）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（尼君ノ）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（原）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（キカエル）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（原）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

食よ。そこなり。安ゆ。れいとい。くるそ。ぬし
ぬ。てしれ。せこうと。そてうさ。せよ。人。ぬ
へ。ろ。心。ざ。ひ。ろ。こ。ぞ。ま。ろ。こ。ま。ひ。ま。こ
ま。わ。て。ぬ。と。こ。せ。ぬ。ろ。ん。と。さ。ぬ。ぐ。ま。な。ん。と
と。な。ろ。ら。の。ぬ。せ。て。ま。せ。を。へ。ま。ら。に
ら。ろ。て。ろ。ぬ。へ。ま。ぐ。る。を。ぬ。ま。ら。せ。ぬ。け
れ。ど。命。か。ま。さ。の。ま。て。し。ぬ。へ。て。れ。ぬ。る。と
ま。あ。ま。て。ぬ。ら。ば。ば。ば。よ。心。ま。る。う。ぬ。て
ま。を。ぬ。て。ま。ま。の。ま。し。ぬ。ぬ。い。ぬ。の。ま。ま。れ
ぬ。ひ。ま。ま。と。い。ま。ひ。ま。て。ま。ま。ま。を。ぬ。ま。ま。ぬ。
ま。ひ。ま。ま。と。ま。ま。ま

秋の末の月けの頃
ワの三ツ四ツ五ツ
うけまけの月とこそ
はべりし寄る年波

四日はごもりよをこのうるべきあげん　十四日　普賢

うのこぐさ　十五日　晦日　秋迦

そ　又　こくうへを　めをとを　沈　蓮の　うぐ　佛の　れば　ぐ　思案シテ　めぐ

ら　月　ぜる　月　れ　ひ　ら　ま　よ　く　れ　ま　ア　ま

し　糸　の　と　そ　し　出　ら　ま　り　そ　ぐ　ま　れ　さ

じ　の　れ　と　き　し　出　て　う　そ　こ　く　と　ま　く　り　の

衣　ま　う　よ　え　み　び　れ　て　う　き　ま　る　し　れ　ま　ぐ

て　べ　し　う　そ　ま　ひ　き　く　し　そ　れ　ま　り　い　ま　の

ら　し　れ

思ひ　原　焚　原　し　よ　う　そ　ぬ　こ　と　れ　て　ぐ　そ　さ　し　ぬ

心の花を　ちるやど

ゆ　そ　う　じ　と　ば　焚　し　こ　と　と　み　こ　そ　れ

れ　ひ　ぐ　き　よ　ま　を　そ　へ　し　れ　ご　み　そ　う　れ

ら　し　に　げ　な　ま　ぬ　そ　い　ま　よ　な　う　わ　ら

き　う　ま　あ　し　ご　よ　な　う　ま　び　ま　き　ら　ま　よ　け　る

う　ら　け　ま　ひ　え　ん　あ　し　か　り　そ　る　ま　ど　う　わ　ら

ど　そ　ま　つ　き　ま　せ　ど　ま　ま　ま　ま　し　れ　い　る　せ　ま

し　く　ろ　へ　ら　き　ま　る　て　あ　ひ　ど　ん　が　心　ど　く

こ　う　は　あ　し　き　を　こ　ま　る　て　ま　ま　て　心　れ

ゆ　く　う　ど　わ　ま　て　あ　き　む　ば　の　お　ば　し　も　れ

み　ま　ぬ　れ　な　ん　う　と　あ　し　か　せ　ど　又　ま　ん

こと〳〵そえうち出たるぞ問ゞて
みたれおさまるさ心ちよそうそぐらひき
ちらしがさうくらうけてゆひわゝひ
などしてじつれたるまゝにほひ
まさりてうけつぎておくそさ海
人うひたりそくせこよなのこみしる
又の日い京へうらせおくれぬそうれ屋ご
ものそやそこうれうわ出たべきれ
うつの院よ人こあ用く新つどひてう
ものも夜上ゝいまるこ新りうわ院さうぞくか
ど泊ていとうこなるさわざるかかく

夜上人逢ニ
みのうてさうべさく陽曲
しごしさよひうれて出たれ心うつ
さわげうくまぎうそうて立こ海り泊う
アゞちよめれとわうぶいぞうそさ出
うち衾なうれ乱久ようさるぞて泊て
でいとうるうしわぬべさうそいて
しいうぞ玉べさいて玉こ泊やとの泊へでば
ほうよ泊へうつ年ぬうわしいまうれ
れもそなうのおぶつうなうほうん心ぞく
しうおど天ゆわうぶるをさう出てうら
泊つうをきうひ泊へでつか年泊て泊やこう

元真集
里遠ミイトニセヨトカクミハ
ヒバレモミヲバ恋シヤルラン

ぬるこしぬ身よそなわるれ玉ぞして
しをるしやいてみどもわるしも出てく
（俗ミトリヤト云ん）（第二）
（ほ）名越ノ
ぬこ流しぬさうらぐこそ人心りしもせあとれ
（サウアラハエリ）（源氏モテリサヘ人）
流人ぐうのとりわひてぬ武よくなんと少ゆ
（第）
かうくぬるこうぐうれてかうれぐこうの
しうごうれぞ（ほ心）なのまわ上（上腸メキメルト）めしと云てこ
（第）
る人ぐしうこたこ（ミクルシト六八）いこれぐ（第心）ぐ（分チカヌ）くまぐ
る出て九帳よこくこうれしうここめ
いこうぐうなのよめ（ヤラシキ）そよわたとやぐる
ほげこひみこうらといこんもしわべし
（ほ）
くびうひきやりてこ函やようこひ流そ
（線）

（ミバシシ）
こむうわ人うこ流へうよさこそ思づめたれこと
（第心）（ヒブくニハ出玉下モ文カミフクリ玉アトし）
くうなゆいこんくうかきさうわのれにくうあり
（ほ）（ほ）れ人ケ（ヌ）ヒ（ヌ）ヤ（ヌ）ヒ（ヌ）ヤ（ヌ）ヒ（ヌ）ヤ

高光ガ侍従ニ成テ横川ニ住
ケル比 洛内ヨリ
都ヨリ雲人童ノ奥山ノ
横川ノ水ハスミヨケレトモ
高光返事
九重内ニハ雲ニ隠シテ
雲人童ノ山ハ住ウシ
京ノ
異風
雖ヲモシル人ナシ高欄ノ
仏モ昔ノ友ナラネトモ
今ハ忘レヌ人世ニモアラシ
ヨカ橋ノ年ノヘヌレハ

待ち侘びて、シバシバナレバ中ナヌトシ
こゝろ慰れぬ
京ニテ
暁の袖ぬれぬ
ヨロヅ
おもしろ
コトカハサヌトシ
音信
ケサツ
さびしさ
慕
ヤ
そゞろなくてとしの
月山
入月ノ
光ヲ云
ヨロヅ
ヨロヅ
ヨロヅ

ショクハキトノ心
之をもてゝ引つけさせらるゝあざれ枝などゝ
いとうして来れり（出産）やおもしろきこゝのまつこゝ
めぐんなれて（巡流）川の（酔中人ニ）まろわかやうげなるしどゝ忘
ひよまぎれておろしけれ
く絶なるおどけたるわてて月とかや
まさ出るおもしろ（大沖遊）あそびそこ（芳流）
ていとい海めしひさしの琵琶和琴だ
ろう笛ごしとものうざわてありよひ
ろてうしろ次ろう狂川風吹のきて
おりろきよ月多くさのなのわよろげ
のとそめる来れやみろ狂よ原どゝ

四人でろつれてし来りろへよさひ（京方ヨリ）（冷）
ろをれ所そびやりろつぞよ作ふ六日（冷行）
のれものいこなく日まそうるぞ来り就（深）
べきとろるれどとおほそれ作れどこて（冷）
ろうごまも就よ作ろうよさこうてれ（冷）
せうそこなろう作ろれ使て来人北弁な（誰トモナシ四五人ト云内ハ人）
ま作ろ

（冷）
月のそむ河のそ（桂ノ里ニテ三月八西白ハ西白ハ）
れうばそばうる里ろれどうつ
なろうこまろ来しやまうと
なろう（原）こまろ来しさ在れう人（雇人ハ）のれなのそびよ
ま出れ所ろのそごさ出人そへろりの

伊勢ノ七条后、宮ヅカヘシ
東ノ市ノ市ノ司ノ倉ノ所ニ住
ケルガヨミテ奉ルトシ
久堅ノ中ニ生ル里ナレバ
光ノミゾタノムベラナル
新恒

淡路ニテアハトハルカニミシ月
近キ今夜ハ所カラカモ

酒宴ノハテ時分ニ沖使アリテ又
ひくらてはね賀よ海う 沖使ノ祿シ
けのぬしさうらくざ
まぬまうけれぬやし
うわなへうよてこ
びつふうけてなる
ふうまいれでめのさう
原 久このひわよら
ゆきうわしもれぬ山
れ心ぢへうべし
ついでまうれのそ
が雪ノ月ん
ぬ
大弁よわざと
ひつうしうわ
ひて糸をうわきぬ
ヒヤリナキニ
ヒヤヲキヌナレバ
桂ト云カノミトシ
桂ノ里ト云石ヤニテ知ラキリハレスニ
行キテラバキリモハレナトハレスニ心歌
アラハ
カツラノ里ナレハト云ん
ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ
新恒
ツクシノ住ハテ大内ニテ月ヲ

ゆうれ ニテ 原ノ所
アハトミル淡路ノ嶋ノ長月
残ル夕ナナノ八九夜ノ月

原 めぐりあうてよよ
のしぢの海れあと
うきぬ元よ
みそつる 帰京ノサマニ
原 ひて故院の
ひうまつうなうれ
左大弁 原ニ比スルト相童帝ニ比スルト両説シ
雲れ上のそみう
れのうてげくし
ふれどうふきくてな
原れいれ海そう
出うよ海長ひかきこもあうべし
原 ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ
ヒヤ

舎人トハ官人ニナラヌ
近衛ヲ云トノ人
ソノ駒ヤワレニクサ
コヲリサハトリカハ
クワハトリノサイトリ
カハン

みさゝ海の
もらめぐれ
ぬ
ようらまで
いろ〻ひ
うきの
さゝ
れ
の吹
きを
びゝ

原ノ物語ニモアリ
今日ハ不敬ハ侍カ子ニ玉ハントテ
明日ハ（トニテ）玉ヒテ
前日ハ茶上ノ侍カ子ニ玉ハン然ニ
音王俊吉事

小袖

原ノ衣ノ裏ノ
原ノ衣ノ裏ノ
物ノ節トハ近衛ノ舎人カ
原ノ心

二条院

原ノ茶ノ
原ノ茶ノ
原ノ茶ノ

原ノサヤノヒトヒニヌツケノヤウニ
ヤさしめいそてれうをごらゐじらくし
なのめの原心ちよりしきあひ流べられどこ
けざわつれ自文うあよ乗ふけぬれどまう
で流ぬ行わつれ栄うもて系れり原えりく
し流てれんぞことよりくうべさあり
しえてひで行原業ヤブリテカノシ玉ヘトミセ玉フこ流ひろしや
うるめのちんしいまいつくこすきれよなう
よりわとそれ行くしうあ流て心の
うちよりと食作恵ノ文よ恵しう受ーやうれぞ文原
とうり孫てことよりめものの流しぞ文えひ
ろうあるじうあれども恵ミヌフリミテミ玉フ氏ニジリハヴヲスシトし
せめてみくし流れほすでつとそわづうち
れそうら恵原ノ氏ミ文フリテミ玉し流れほすでつとそわづうち
ますこぼれめべしきうあ流てまとハフ原アイラミキ
うげうあ明石姫君のをみしうば樊あうくもえしぬ
とさわとてめうさん明石姫君ノ中ノ時宜ニノ玉フし
ろなんうひうあすぐ心よ明石姫君ノ中ノ世ヒトカレトし
れ心よ恵ぎめ流べいぐそべき実うそぐ
ちし流てんやひうあのるがよひうしうよ
りをつもうきさ流ひうしんひそぐう
そ、そけうげうと玉つうしまごうて
俗性シレス人紙ニメモナラサセントキスナキ成人セ尼
さんなどえふをめざ流しとあげさうぞ
ニクシント着壺ノトキニシ引ユ
ハしさウしエボシラ
ヤノ心し

カソイロハイカニラハレト号フラン
ミトセミナレトアシタ、スンテ

少し近へうしと実に近くんとぞよ（業ヵ）とこそ
し（紙）れ心の（ホノメカシ玉フラク所モミシラヌヤウニハアレニジトテ・大エニジモスルトし）そ
をくやしとそそ（ぞ）せめてみてぞそうら
ようなるひめ（業ハ）べくうんいるようつうさ（姫君ノ）紙心よいと
よとそそうう（ら）ふこと紙ぬ（せ）らごをわう
ならら（イメハ心）ふきぬすし紙心つれ（ぞ）えそい
ごさうづ（ぞ）やと（ぞ）ぞ（ぞ）ぞ（ぞ）ぞ

日サス峯ニノナリウス雲ハ
物思フ袖ニ色ヤマカヘル

後撰集十一カリソメ
ナル秋ニ待ケル女ニ心ヒリケル
男ノ愛デハカク便ナキ人
ナレバ心ザシハ有ガフ工夫ヲ
ヨラヌトイヘリケレバ所ラカ
ヘテ待ケルニミザリケレバ女
ノヨミケル
為カヘテ待モミズナリヌレバ
ツラキ所ノヨクモアルカナ

恨テ後サヘ人ノツラキハ
イカニシテトナヲモナベキ

拾遺 女

△前云 十四年ヲ経トス、源氏ノ冬ヨリ此ノ秋ニ三年アリ

そよなわゆきまよ川づらのそなわいとぐ
心がそさ思ふわてうしのそらう心ちもし
てゆのしくそを者し行くていえそぐ
きじうれちうさ所よ云うち孫と生そめ
彩へどつうさ所おりく心みてんしあう
なさ心ちをべさをいよいひてうるどつ
やうよみぐれうわさうでけわうぎとう
てのこいびんなさことなうそう心あしだか
うでけうしたいよ雲ちうそをさたのよゆ
しうとをうでみるいさをてもう後ぎ

源ノ思ヒキリ、有中ニ交ランニモ

大井ノ宿

東院

源

源内

中宮ニトラガ欲シ

北方

田舎

雲ヲ出ニ入リキ

三歳ニテモ五歳ニテモアリトシ

のことなども人をしぬ（大井ニテハ、ヘナトコトバ）さ侍るかしぐ（ぞ）さかさん
となんこゝとまるあやうくこひ（恋）ぬさ（恋）あ（ア）ぢせ（ワメナント）
らんとこゝろ（前ニヨリテ文意ヲアセル）ことろ（ヒ）ぐ（ヒ）ぞ（ヒ）ぐ（ヒ）ぞ（ヒ）ぐ（ヒ）ぞ

き人のれいうしたぬるよいかれ心をよろこ
よそのかたうわとるこびげようなの心
うき程やゆづりまもとゑ又ひ
ゐらてうハかうくらんとつれくしなぐ
さむしこうくていいでなのくくもべくん
かまつけてうゐさのれうゐわしあん
かどさゐぐくゐうぐくよもあれうきとの
ざうわのなのまえゑやうきこんてゐぢ
さうみをうざうんといとしひのさわ
めべれどつるよれ姫君わようべくんとと
そゐそあうくゐてのれとよいゐぢ

いぢうくめこあしてわてまり れてよ母 后共浄更衣服ヨリテ次条アリ
くくよそみうどれこしさくま 座ノ方ト
おそそれはあぢの れせよふるさに
ゐりゐゐかくせよれこれ 更衣ノ父ナリ 右大納言のいゐ
ひとさくなわおとり れて更衣ゲサクとい
れれしげちめよそおそそれまてて 紫上ノ十三ハトし
人くゐぞくゐべきとゐもゐくみこち
だれしれくくとこ 本妻 むしひくと
うわの別腹ノ子し前よい人しゐ
えひくくゐぬゐまてうれてやんと 紫源
ゐされくくよくくそぬれぢ 姫君ナト生ニテ

カリコイシ
ツラセフ物トハカヲヲ思ヒニキ
心ノウラゾヒサヒヤリケル

こよなくけうれ侍なん程こよなくけうれ侍なんとよ
しひとうてもそうづれのうくそやそ
なうしやれぬもしあとのうしれてうまざ
の程しいうづさ心をけくそそうろ際
山ぐれそいうたのうへうのんうまを
実し侍てもなう侍らん侍とし実
侍へとも相人こしもこうこうこしよ
しねこしをなどそうろうし相そう侍てい
ぬさうべしとのしへこうこうにうあ教し
ちう実ゆうるしおもうへ所のいとあうさる
ひてしえの侍そ侍れけうまざれという

やうようとの侍へうれ侍りよう侍よろづけしとう
ひるさ分よたぐへ実へてはげよあひさ
しいとあうべく実て侍をうらます
ヨウアルニシキ
ア侍そいうへうへうへうへやとおしうをいと義よ
少子所ノ名
実を日などこうを侍てあびやうさうべ
きことうどの侍をさそを侍をうちさ
こうさんとい侍いと義よおぼゆれど
れけうあようべさこうをそいと侍へ
のとをしひきわうれあへとうけうれのね
おしうきつれぐとしおうこうひて
かぐうあうひつうよいとくぬけざれ

ことをとさんうわさいうばうえゆべきこと元
しろくめかとしもさうべきこうわ元ぬきぬよ
てみをりそわそこうしはめれ心ぐへのわれ
ぐてうこひしう覚て紅べきをうらうし
実ひうことはいしはるじつかよいとしうつ
じしそてうそしそくよるのかれま
ぞひしはるんがやそうぞしはべきこうか
ゐどうらかさつてもくぐそ紅よたそそよ
しううぬ言ゆれぐしうよ心がそさぬきわて
ゆやしくうぬぐくしよゆそふべわ乃乃身ゆ
みとうらなげさそつるわしはえをか

でてろひてゆうわ言うさくしゆ
たゆうかしこうこうゆくされとれこ
らばこつけて例しとをうしらうう
ばかるどしせぬをみざしのこりそどみ
やりてたうさうぬぐしのなよくうなま
こうそかがあうやうぐいうらつさうけりう
うでるどうさうわうすきくと実ゆしうこ
そかこそゆとうゆ紅かつ泪をういそして
ゆうくんはまつそいるゆけつかくんと
らうばよううゆうきて
富士の山

富士の山のたそそれぞれそれ紅ゆと

ようゐ弘うしぞしてこの路へでぬとうちな
きて、
あと君まよるのさくらの山を踏てし心のう
ち弘近きしかやいこひのぐさしは君を
うしなひてわれ路へり例くまもゆう
よさしろのらんとゐことようわしのうちつぶ
れてひとやりのうぞ覚を我心よそなめ
いすび男しんとをわてやいなばちさなくどれ
ぼゆしどうろぐをうさやうとせめてんら
へをいとらつろげうそすへよわ路つをみ
路よをろうよゐぐこうわろろへのをくせるかと

おしかをぬ君をわあ[illegible]それぐしのまそぎれ
狂ふ髪ノ乱レトリ
ゆくくとめぐうつくまのもの
われろ狂ふどつへぐさうろのそれはよん
やうん狂の心はやしをうくうをいと心ぐろ
しくれぐうちへしの路あうそかようく
明石ノ上ノオノホトヨリ水ヲヲヨソヒテナミ玉ハヒ
ロあ
ぐとをゆうぬしへ狂へぐあうぐよをて路ハ
をひ衣なるわひめ君くかに心しうくてれ車よ
のんとをいそぐ路ろ有よをく君こづ
ろいづきしぐで狂へうこのゐをいとう
ろうて袖をこうへてのり路へどひくし

いうどう笑て、

末ごをうふくべ葉の松よひさわれいつの
末ごろさうげをうべさえもいひやぞい
うどうるけどもまわやあかるうと笑て
ありひそやし初もふりけれどうけぐ風の松よ
小松の子代をうぐべんのどうよとおぐさ
め流やうこと云いんもづひれどえなんへうろ
めとうかれとてやうろんでうれしく
しのまづつやうれ三歳三用ニ出ル支ラコレシロストし
ひまづわうんわうるどのせてれとうよ
ふうきわうんわうるどのせてれとうよ
ふうもそうりそづこまわつうんれ心ぐる

さをいうつこやうしと笑せくうおて
しつさてれ車ようそうわもやようけ
そひとうるをあかうびくる心らどもいた
こうくてやまづらうんとうつれどけた
もてとこようつうもれてらいさこれ
でうづでしうけうけようのくもれて
めれとつかのよいのうこどの小よう
りうをうれてわうれ書こうらうて孫れ
よりうづうきあうるうれてあきなどいた孫
これぞこうそれうづとの寄りうどもれ
（どやうくみやづらうてもれ書のみねを

明石大ノ石法師ノ子ウ九
二条院
法師ノ得ントし
伝ヤ
ノキラクシ所ノ住居ノワビ
ノ息
明石浦
二条院ノ
別ニ
二条院
仮書
ノ書
ノ
ノ
ノ

もしのそらにとびはなれ
しでなぐさめまさぐれど
なれぐまりていとやうはとあり
なれどなけなれなげきそなほ
みなかたもわしらんなほ
やんのこふべきなれどなほ
おもせとらなりくあげさうしい
ぐもとのそなきどしなれしらどたる
心やなくおうさ心ざあれだうへよとく
つきしつびまし於へれだうこうりれ
ぬえこわと学ーなるとくうつぐさあ

つひもそあそびまし於そめのとしもあづ
しらうつうまつりなりまさん
ことなさ人のらなりへて年なれなる海ざ
しかよどうわざしとあげいくとあけれ
どもこ多ことうれにつつひひのなのそびれ心
らておうしうあ年ならまらこでし
よやしうぐわうさぐひえめたきひ
ゆひ於へるしひつさぐうけうけさひて
みえ於へる大年よはつさせ恋しさまし
那化をこうわをあげさえへうさえ

しが尤ものしたしきに同もあるべしとこうくもて
なしつるに紙をとりてかくしうれうるか
にごとをうい中くらかひ中ノ心
この人ごとよめれとしるわるべかりけるに
なひとをいそぎてとりまれるまちに
ごとをうんしいとぐさとこんよいと
しれで年の四よみびてわすれて
ごさびしさそまひよりれのしげさ
ぐさとさへあるしまてらんとの心ぐる
しれでれ文などしてまるくつくそ
めでしい海てしとよろづまれてぞうて

ちさへよつとるまし流てこうしくね
ぐらくるるそしよことるされるさはいと
めでうくみぐさいるるれよそひよ彩
たどひ流めるる人のかとなるさ花のこと七日の花
正月ノ示寅明日ヨリ七日三月ノ支し
すろこびるぐらし流ひさつれ流てうわるやるる
もあるこしなくく心ちうげよみえらつさ
くの人し心のうちよいこともやあらい
べてかうるよこもれひうしひんが
しの院れるいのれるしうるはこのま
こうるまかりさる海よさるぬ人ぐわて
べのそるるどうらとぴぞ心づひして

[illegible]
[illegible]
[illegible]
わざとはみえねどそうでれ心ざしぬのちひろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

催馬楽

梅人ソノ母ナラメモハヤクヒ
トハヤキワクレルミテカリコヤ
ソヨヤサスカリコヤソヨヤ
ゴトヲコフフオルイハメシテ
カメミツハサルロナレハアスモ
サキヨミヤソヨヤシヤスモサキヨ
コヤソヨヤ

うちうちをきて（人カシテ）　ねそうえとくち（催馬楽し）
どさいていで拍よ　わこどのどりまち（葉）
けて中ねめ　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）
あこしりをちう（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）
うちうえせかとまちら　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）　（葉ヒトツ）
ひと白ひやうよ　（原）　（原）　（原）　（原）
ゆさてうてのそもうえ　（原）　（原）　（原）　（原）
らうくをを心ちと　（ハカリ玉ハヒ　（原）　（原）　（原）　（原）
でされありさ拍人をうへいうけとみ拍　（葉）　（葉）　（葉）　（葉）
へをちらうくめ　（葉）　（葉）　（葉）　（葉）
をうゆうれうへいうをこそうへと　（葉）　（葉）　（葉）　（葉）

そいうでう恋しわめへさう風をこ
まありてかところよれてうけうけるう
れらとちめれてたちれれいう風みみ
所あ月うかまへうれうへうなどうなく
しでやるどうてひめうこよいとの
でやよ心でせのうけてひよそうて家
のきう風しやうをうてめてうきよ分
でうのけちひるどいううびごとよんと
なうきへうをとうけちめこよるうそう
らよういのうまりうれびまきわゆで
おつのれうかしようきいまうきうしうじさ

（世ヲ美有人ニ交リスラ人ヒカモヨヤシ年ニレテ人スラニキ人）

世中ハ夢カウツツカリノ中ハカリテワメシツツ物ヲヨノ思ヘ

ふたらひなくやとしろべきとせよにぬひが
ぬなりなどやのあしなどそうるれ人の
狂ゐどいさてしなべきぬとるどえそそうつ
よのうぬ狂よのこあれどうや心のどうるぞ
立くうれしるくて美のわるれうさ
そうとれとれるげれてさうれとれあう
とひきよせそうれなてそさ来ハみさ
うし初し例の美て出うれどびてとわわ
なくせぬ初へどそうてうきぬそうそ
うれとひきしそうしくんとなばうわう者の
れとるどこ海やうようあれておそ変え

大方ハ所ニテ聊ニモノヲ聊ニイラヌトミ(メリ)
うう有るれどうくうくうらこまわ流ありく
われどえうふさくりのこしいるだうわいさ
うめそこさしうう常ノ合イ
ふどよおうまし海ざううていとまの
よハうつれうるどえいとけどやようれ
こうくうなべてのさ海よハそるれハ
ぬなどそいと変てとよハうるめしあ
うれ心の狂をみうるやあてるてわ
うのこといいでぞえうくひけせぞふ
てれ心をこうそよりそこふとなくいとや
くでいわうくあ海ろけよんとなうさ而

清涼寺桂院シカコチラ大井ハ出アルトシ
好絶ハ
上手トホムル月ヒ
世ヨリ上手ミ
大方ハアツカヒ王ハ又トシ
マギラスレテ出王フシス
寅ニハ
アシリハ
早下モゼズ只中庸ノミケシヒモアル
イラスリヲハ
歴ヤノ思ヒベメテ
カリツメニセ
哀ノタメノ
悲ノ

そうもうしうけたまわるけさの
きぬをそなたとさうとこうしぐらさ程
よまでらひてこゝ中こゝとめあれて人のか
でれなることだぞそなたまでうまぬ海さうて
うやうよりうきよ人なれそうけさ心ちそ
しとこゝろ〇しのこゝろもさそひしがは
れ心をきそなわさ海をゆしてあば
つなしらぞ人をそうへてしの〇たゞ
ふしことしもあり又あしもしくられ
とこゝとしあり
あきあとぞうんあり
あれぬせれとりとも

けるうきなれぬあはやけのもあかしなげく
たゞ
こゝろ
のさもぎこうしうばゆしてうのとこ
人あはうの源氏のおとゝしとらあう
よりげのことをゆづりてそこと海
しきつをこゝろくことこゝろくしあはされ
てなげさおこそみちどいれとうわし
こよおうおとれしこう孫びをれて世
のまつりごとしうあつこゝ実ぬべき
まいあこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
ちぬべき人しなうこゝをうれるゆづりてふ

そうるのうれいかいしるかとんとあげそよいと
ばのぞ口ありしく恨のれいわざなとまされ
るどしむまごよさてあんこ思やうよこそう
いあつうひ学ん所ろうそれとしたうこせ中
さんぐしくてあ月やけざ海よわのさとう
きぐくのどうるしぞ内妻なまけ実まも何まき
ぐう月日昼の光宮みし雲のてぞ海ひ
ばうとのこせのくあどろくとあくてみ
らくのんぐ文ごうもうまいやさう
せようぐてるぬとうしまぐてわうち
れおとぐのこうん心のうちよるぐうれたくば

受ってうくことばうりうる人々さきいれこや
去の始うあやこうせ所てこ三月よえ
いしとくなうせ所めれぐ月幸などこき
院より別をせ所しいとこはうて
四ゆうくもあげうれざわーをいうぐうあ
しなげさこうれ気多れぐ文しいとる
こくうやうるとうるぐそのうぬじ
さうとこふ所へつれどおどろくこうさ
心ひうもはうざわつれぐ命れうざわこわが
よはんも人やうこてことくこうんん
ときうわてなんくぐれとうどもわ

ざと例よりわしうわらさてしも侍ぞか
ほどよりうち紛てし心のどうよ昔の月の内侍し
なのどこゝろ深人なりしらぬ間にしぎ侍ぬうちあり
うくゐてくらあり一いぶせくてそぎ侍
めりことくびとこゝろ深しかれ世ぞおて
しまりうきれどいとわくさうわよおい
ゐ海をさ海をあくるとみをもかれ
間しまを深べされとつうよしもしく
しうぞ月ばるさをかれことぐるよかばさわ
うわ侍つるまれつ新蔵ことをしはひうわ
もとよをさをかれしざわりうこゝいうぐう見

しううぐはぞおどりさてうか
げのとをさをかれ月はしつのれなやこと
はうらうもこしうつるを源氏のおくぐも
やくおぼしいううざわれ侍れどおく
へうせかれしうるかきことあるうえいとく
ふうてもうぐ三ゐもあしをかれそ
心のうちよ見てつうよくうさをくせ
せのさうへしなのしぶくうく心のうちよ河ぐぞ
ゐことし人よ海さわりうあと見てうと源
うへの賛れ中うしうとの心をうをかれ
しぬとうすぐよ心ぐるうみをうせかれて

これのこゝろをくむにそがれるこ
とを学とするべきにこゝろ
おもひやりなどいとなくしてあるべき人
のうぢわすつべきことを流布人とをしへぞ
学なるべくしたれぬ義をもとゝ限りてい
のりをどりぬことをすべし幸にあり
しこゝろをつくすべきに今一度学ぶぞ
なるわざいとくあるべきにちがはれ
悪のもとゝなりてはりぬるなどしきり
べき人ごとにひきぬ流人ごとにきこゆる
ふりにてこゝろまゆ船にやまを流石

心らはれとこゝろひとはめのろしゝまを流ぞ
せうきを流つりのいとくこゝろげをれまを流
ふるひにとうりていうじるどをぞるぬ
もさを流をぞうりにれどしのこゝ所なくう
せ流ゝうことくあうきなげくへぐあるうる院
つれをこゝ云よりかひてうちのれいうこれうゝ
つり流と幸にゝをりにるとあるれどかるつ
けそうはその心をせとうゝ海をしりゝ安
えんとのこゝにどうよゝ伝りをゝ今うん義よ
ゝらかりくしかのうゝよの流くをるしかのぐ
安ゆるよれいつへしあしやり流をぞなゝ流さ

まことにいうばかりなくうしし心もさうま
みと人めを見て人をせどいうてわのれいわ
海を大きこの世よつけてしてしくあり
き人のれありき海をとゝ心よりうがわざるゝば
けそめ見しんうくひうるあさ
ふこと限なし汀キハリ
らししうわいうてうをけうまつべき
とを心のいううざうわいをうあるぞこれ
ふよあ月さかをのうれれあうとうよせ
中心あうこうをうへうるうよくおて
しませどようげよ忘みぐれけうてせよ待

むとしのうあうそうしい心ちかんしけとあしれ
行よごとのさえいうやうてそ
れめれどいつひなかとのうくうかきとを見て
あげくやこつそれ多の程と実ゆ中よ
しれ心ぐんなどのせしうあるしけうるく長
よおそうあして人のう
ゆへとあうことかどしをのづうちまで
ふをいきうしさやうあうとのこぐれなく
人のつうまつうとをしせのうること行
べきことをとばうでめ行くどくの方とそしせ
をむうようわれて

深草ノ野ベ（カシワケノミチヲ）
コトシバアリハ墨染ミサケ

きぬ人のどしのさうさ世をいとふ
と遠し（御陵ニハ玉ハズ）やうとなくくらべもとら
のたしりのえ折べきさけきうつうふれぬ
（許領ナドモクラベテ）
ぬさうべきうぐわしてまことと（真実ニ）心やうさこと
ごものうぐわをちをを折へれどゆとさく（キスクハン法師ナドモ）
まどさ山づあどまどでありこ実ゆおきあ
をうもも世中ひぐさそうあとんとを
人ぐう厚どくべうどなべてひろ多よらうを（服衣ニ）
わうてぬのをへなきをの言ひうわ二条院（本心）
のあき人の梯をれしんじてし京し天人のわ（詠周ベ）
ゐど言ういげとしぐうわとひとわごら紙（古院ノ御時ノ）

て人のみとぐつべうれだれい祈へぐぐうよこも（待佛堂ニヤ）
アをゐ祈てはひとひひなきうくしぐ紙夕日たう（キツツト）
やうきして山ぎこもの末ぬうしなうよ（山トカヒトノサヤヒ）
雲のうちくわしれうぐにび多うをかに（紀ヒ多ヒ）
ごとしれいあとぐまうぬにうれとひとゆ義よ（消ノ雲ノ色ハ）
ゐぐさう

（涙）
八日さうそ雲よたゐびくうそ雲くりの
ふ油よ多やまぐ人さうぬ雨ふれひ（持仏堂ニテ）
なし（涙ノ）いわざなどしそぐてことぐしたげ（服衣ニ）
まうてみうどぬ心がうくそうう世大の（食）（ヒ）（ヒ）
まのれ毋ぐさうれのれ世うわてこうりてれい（先帝ノ名）

ろ北の方とてさふらひける（誰トハナシ）侍ども故実（故事）ある
いとやんごとなくさてうちさはぬよそうわしと
あはれやけふもとまれかしとおもひて（伊勢物語）いかがはしてい
さかに朝ぎしあるくらうてせよしこきひ
ごりなるわらこうせけずだにうへて今とも（後生）
そのものをこなかしとせんとそこもうらぶ
（後世ノ勤行）
（変）あめのけしとよりて出うとうらうわ
（変）
ゐてつよさふらもせ法ひひいかなとの
ごとく参りさふらもうべさよりおとづれす（原）
（源氏物語ノ中ニ）
めの前へでいまはよりあるみどいとこうへうこそて
（夜居ノ僧）
ゐれどあはせどのうしこうきよりかうきれ（変）

心ぞとそんてとてさふらふよきげうあるうのう
つきよ人しらうくさきやうぞのうのいまぞか
どうあるれはこぶいようちたもぶきつて
（古今集）（スミニテモ）（伊勢）（フルキ年ノ月ニ）
世中のことぐしそうしぐれつのでよぶとそう
しぐこくてうあてそれたとよもやはわうう
（中天ハ）
らんとこの前へうぐうろうことあはれどうろし
めきれぬよつしをあるくして天のまがこおう
ろうしくこふ前へうるくことと思よしせひ仏
ていのうらとうわ仏なのどなるれやくうハ仏
（益ナシ）（思紫ス人）
らん仏も心ぞうしとやそうめんとばうう
そうしうてえうちいでぬことのうへか
（後心）

にぶとのんけせよ　ようしあらべくゐとや
のんかしいひぞりと　聖トハえじそんヲ云　えどとはるまで
きものこうまのそこみくうてあんなる
ゆとと学て　冷羽　いとけおわしゆゆあ毒ぐ
てゐことすさぶそこよいうくみびのこまれる
ことそこうとあんつくゐめうとのゐてを
しぐあるか　佛教用　而　こさてよ仏のいきあまり恐
ゐんごえのいきををてようくしうでしる　秘法ヲトシ　三法
ことなくひろめはつ　中ヲリトシ　仏門ニハツメ中ヲ又トシ　まつれうまして心る
くまあることなるごとにうはんこれほう　ノコシ中ヲ又トシ
くゆくうきの犬ずとはうとをそざおハ

ゐまいはう　憍　羽童　まいのあうでいまをを　本し
つうこうはおとぐの　所　ゆうあをべてくうてよう
らぬとうやあういではんうう　老法師
のあるいたとひうれへはうとしるにのくび　後悔
うはんゐ天のつぐ　法師ノ羽ヲ　羽ヲ七ハ割ニハヨニ又ノ　ゐるよりてそうはる
なるわうゐてうまれおそうまのしうわし　清
ゆうう　秘　文　まのあくそうなげくことはわて
れいのりれはうまつせれゆへあんはくくし
ゐくぶ法師の心よえさとうはうぞとれさが
ひめありておとぐよこさ　た　ぬのつよはうあれひ　所
しとうさいよくをぐそうてうまて　変

れいのりどうけ流をわ伝しとおぐし（原）安し
めてあんえさうまことくらく人あはせられて（雪ノモ）
（論ノ仮名ニノヒトヒトアト祈禱シメルトシ）れたるまつさいあそらぬ海しまぢたう
まつうことくし伝しそのうけ流（密通ノ沖チノコトシ）わしさ海
とてくそらはそう（三通ノ）ろを安（貪心）しめそまあ
さまうめづうあてあそうもう
うしさ海ぐまれ心うぶれわこだわいう（シバシ　アキレテ）
へしなけれど伝教そこそうしたろとびん
なくそうめそうやとわづもうんて（キトウ）
やとうこ海りてまうづうめそめて（貪）
心ふまでるあまうば海れ世まぢれこぐあ

えべうわうことをいまぢでみびこめれうあけ
海となんうあてうしろうき心ありとん
めうえはことをそうてもうしたうぐ
ひやあんとれ流そさうよなうよごしと（別ニシルヘシヒルナトシ）（伝教ノ）
王令数とうあれ人びとの気父そうん
伝うぢさうまうあんいとあそうう伝えん（天変密星ナドノ）
ぢんあどそうあまさとし世中そづうあぬ（佐）
くはけなあいとうさあくぬの心そうめそ海（治ノ）
じうつう流そ伝つれやうくれまうひさ
まおそう海て伝のごとしわうさまうんさ流（改ヲ）
べきはまいまわてこぐをしそめそあうまう（清ノ分別ニ元数ニナリ玉ヘ併神モトガシモメシ玉フモトトシ）

げのことあやまれ（シヤシテリ玉ハデハトし）
なれば（ホンヲヤトモヒロシメナヌハツミシリロシトし）つしとも
きよるわ（申ニジトヤメテイネシ）へけりてしこととさうよ心よ
ま出しなめることなくくゆゆ行よな
けもそめれでまうでぬ（表）へし養れやまよい
うごきことを実しやうて多こよ学みぐ
きさせ（係）故院のれしうしろやくあそぐ
れくくへまそてせよれ（ドトミリ）へ流し養よかくげけ
からわるとうこくぐ学ちやみてしさく
ほまでそでうせ（月蘭）れるひ（ルヤヤミヤト）ぐくるへと実れ
てあとしあどろさて勇ゆ流へうとれん（浴ヒヲ新ト）

ぞるよつけてもいとぐみびごくぐ学ちやる
れて（れン）間のこほ（ほ）ほれさせ流めるを大ろ故（表）
まのれことをひろ（係ハリ玉ハス）なくぐ学ちやしろれか
れでちありとの（係）流れ日武ろのみこう（飛鳥ノ御堂ハ名キ〻程秋院ノ文）
せ流ぬふよしてそろよいよ（濃）くせ中れさ
ぐごうことをちげさ学ちうろうろ
なしであとぐごさとこもしえまそで流なでつ（二条院）（奇）
とうろひ流（生）ちやうれ（表）ぬ流のれそよ（各ヒモラ一人性ニし一）
世流つさめうろやなんぬ心がそく何な（門下侍）
ぬしらなんそろとのれとてしくれどう
ちやぬよよろげ行ちうそちくちん（表）古文の

おがさん所よりそこの世中のことをこゝに
わつれいはこゝ心やすさ（位ショリ井玉ニテ）にまかしてしもぐさ
まかりくるんじゝうてひすて給へと（原円）いはは
ぞきれしとなるわ世のきづうなりぬことをいふ
ぞまつりごとのなりをくゆがうよしうわ給
らぞさうこさせすしもんよゝぬとだ
しゆうりひごろのみどれせよしよこゝはの
みぐれいでらうともうこうもしゆうる戒
ゆるよしさんゆまりてこしらわれしよひ（長谷時雷青）（左大臣ト枕国式マイリ二）
ごしれ対いうわめうを学ありけくべきこと
よしゆゝぞあどもきべてありれとぐしを

学ぶ所ぐこゝうまりのおしいとうこゝてて
やつのこゝうわしくろ（倒リ）きこれはよそひよやけし給人
ふれいこゝちくみぐこ所なりこ（ミ）人しうぞ世
ぐ人よしぞうこうとなりどさこうの
しこの後を又こはうよみをり給つて所と（伊勢ノ日ハ）
よいとぐ義よぞうこうれぐいぞひしと（伊チノ日ト）
とうそやこうこうぐやとあ世ぞどさすよ
うこうこなくしあ所ぬべこことなりぞ
わうきれ心ちよ世ゆまりくゝとしえ
うちいぞ学ぶ給ぬ程こゝで大うれこ
うぐあをこのこうわ親やこよあつうまさ

せばやうらに（天子ヨリ礼ヲシモフシ キワトミ）こゆり給へるさまなりていとれ
気後ことなりとこそ（東ニ）これ人のれめはいかや（原宮ニ）
しとみたり給へどとくさぐくと（ミサイニ）（冷）
しやうんといかばかりさぶらひ給へし
王命婦よくそこしこと心かりうお（冷ニ）（冷）
がしやせどいまさらよ（冷ニ）（冷）
うよりとうれ（冷）（原）
おくよいでかのめしこひなてさ（原）
ぐうるこの例（昔モ密通例）
とでかはせどきしよりでしあけはてい
よくこそ学問ときさせてさ心ぐまの

史記

秦始皇ハ楚ノ荘襄王ノ子トシテ即位トスレドモ実ハ呂太后ト呂不韋トノ密通メウメリトシ初ハ呂不韋ヲシテ後嫪毐ニ誅リシトシ始皇後ニキツテ両人シコロストシ

世トハ諸代ノ原氏ニハアラズ其代ニ一旦タモツシニ

ごしとれたるんぞよりうこうよりうこうよりうこうれ
てしあびてしみぐるしきことい
なりうりうりう

うちくよさぐしめ戸紙ついぞよなんみう
ど学（れ位ヲヂリ玉ハン）よそろそだられこともしまし紙
ゆうと（原心）あとぐいしまものゆくおそうう（ハヲ）ゆきん
して（原羽）さうまうのうまぐさうとり戸ろ紙
相 教院のれ心ざしのまこれみこうらのれ中
ようわうきて学（原ノ）めぐ〜位とゆづ
せ紙ちんことを学ろめ〜ぐなわよけ
原羽
ア（なるようそれれ心あ〜ぐめてとよぐぬさん
よいのぐわ紙ん〜ぐ（キリ）ぬ中ノ中ノ）ぐ中とのれ（ヒ）とうてまま
よあ月やけよれ（ミウヒロミヲ）ぐうまつてい内そうの
よそひうきなわ紙ぐれどうなうをこう
（過せヒテ）

ひよこあり紙なんとこ紙ふるとけるのれ
ことれしようそうぐそうし紙（ぐ）いとうち
あ（アカメ）うなんぐ学ろ（原ノ）大改大臣よなわ紙ぐ
きさぐあれしど（原心）ぐ〜とあ紙そ所あわ
てこれ（従一位ヒ（ギ）牧一品ノコトシ）めそひて（某中ニテ〜ニシテ〜ノ親接シ）牛車（内裏、）いうされて糸
ようぐそ紙れを（食）れうどあうぐかぐ〜ぐけうさ
めよこ学し紙てれ（原ノ親王ニナレ玉ハントし）みこよなわ紙ぐさよ
を学ろの紙そそれど（原心）世中のれ（ヒ）ぐうろこし
紙ぐさんなし（ル）権ぐ紙ぐ大納ぐよなわて古
ぐわうけ紙ぐろをいい（大臣家ナニテ）ぐ〜ぐさいいのぐわんよ
かぐごとしぐ（ミウヒロミヲ）ぐうてんさそれちよこもく
（ナニテ〜イトヌシ）

しもづけのくにあまよりとぞ云て仕ける
ものらとよ古文のれんあるしいとあつい
又うへれるく云てあるやめうをみをり流れも
うどげなきようなられることをもしそ
うしんとおやさうあるさうあるを命ぬとみく（清れ服ノ調ノ所ノ共ハ役ラウケメ々ハルトシ）
しげごのくるわしうあるけるてざう（考ラ云）
し流るわて氣りうあるあとで對面し流て
はしとをりめのたいぞよあるだうわるそし
もしそうし流ことやなわしとなかい
し流へどさうしよう（スコシノ心ニ）でしやしめうんとを（モタイナイ）
いうどさとよ云てめうてうけしつしうう
（ヲミツナルコシ中ムラハ）

ことやとう（治）へのれうあるを仕云てあげさ
うわしをやゆうよしひとくるるぞ心（原心）
くおそせれいそさあるどれさせぞこひ
云しさを流。秋（ミヨリ秋好中宮ノ文ヲ云）中よりの文（原ノ前ヨリ左角ノミウレロミニ可ラトシボシヒトシ）
れうこうてやんごとなきこれあがしなう
れよういうわさあるどしろうあるよりはは
ううみえ流へれど（秋ナシ）ごけなきれるそ（原）
しづき云し流て。秋の比二条院（清）まりぞ
流へて（ちん殿のれ（初ハ朱書流ヘキヨウ悼エフ今ハ源ノれ里ノ介ミシ玉シ原ヲ又ヲヤキ玉フトハ）
ひ云し流て（原）いまハじげのおやさあるよりそか
してうひ云し流。秋（ヤ）れあいとさごよ

ほてあまくの前載れ多くこぼれる露の
こぼさるゝ（原に）ハ（何や丸や首）へのことごもうきつゞけあ
しとしれてれ神しめれつせれのれるこ
よ（原）ろこ（原）ろ（原）ろ（原）ろ

と心うそきこと
世モアナメニハ
なくてぞしるけうかばまぢかきことを
えぬ
の心ぐるしさかのまちかけわが心
しとけぞしをぼ
れてやしめることよ
うけあんはるまぢひとりしけそぎ
れよ
しれことよ
原ノ恨ヲ
恨ヲウラミハテモこし
ひかぐらくせのうれ
後生ニ
後生ナサハリ
成王ノ
られしをうでしたつまつれん
秋宮ノルウレロミシ原ノしたもと
秋ノ後見ヲ
ぞるをとあんなくさめ
原ベシ
なるをどもえ
秋ノ後見ヲ
しらるれしそぼ
本世ニテ原ノ恨トケント思ナクナム
本世ヲモカラシト
長ヒケン
そ
原ノ恨ヲ
ニシテ
キノトリ
又読ニ
ヒ
ひとしの
ひさ

ムサボシモ王し相シイトゴセン
君ダミカメヨ長キ実リシ

ちりかうにあれなすさ
ぐるこ
原ノ
ちづこ
ちづこ
ちづこ

一てんやゝ長とぐろの所せぜい
（奥地に居人に言ふ）
ゐるいろ〳〵侍ん人との所ひつてう
（所ノ）（後ニ原ノ）（後ニ原ノ）
ぬいく〳〵しかけれぐさわやかの心うとそこと
（原ノ）
くよ〳〵ひまぎつこと所りいなしいぞ
れどやうよいけうよれうぎわるとれこき
ぞ侍れ世のたとやし心よまをてこうち
（色ノ）
みなんと云侍とは世の云出るこうぎさか
れ侍ぬそさそよはあうら侍べ侍れ
（未ノ）（未ノ）
数あるぬあるぬあるこさ人の侍るひさきいと
（手紙高門ノ心物ノしハ馬馬書益ライムホドニタニヨトナニニ）
侍ごをあるやうこうけあくしれけうど
（親ノ旨ノ）
いろげきを所て侍ぞ侍ぞ侍ぞあるん侍ぞしぞ

（下心ニ人ニ言ヒトシ）
まんさを所人あるどやうを所れいけ人とひとあ侍とう
（著ノ字キ、イリテシ）
なるさ侍よううてひとことだうそめ
（ヨメヤカ）
所ろけうひとあるこうけあるよ字つ侍て
（ホノ）
あるぐとうるくまぞおそそうぐこうく
（六条院ノ玉ニトノ序ニ如光ノモフナベシ）
これのぞこいきうやして うちゆさ
（ホノ）
うるすこの京りみだ京の気父よつけ
（ナノサム）（ホノ）
てし心のゆことし侍ろうし侍を侍京
（ホノ）
れうやし秋れ和のさうとうるぐよ人
（ケノ）（ケノ）
あるそひけうゆるそれこうのげよと心ようう
（細流ニ古来直次ノ文トシ）（文トシ）（ナキトシ）
ぞうあるくなうきぐめそ侍ぐんなれし
（ホノ）
ろこしよはを侍京のにしさよ土てりの

大方ハ秋ニ心ノヨセシカド
花ミルトキハイヅレトモナシ
春秋ニ思ミダシテワキカネツ
時ニツケフレウリン心ハ
拾遺
春ハタダ花ノヒトヘニサカリナリ
モノ思ハ秋ノ夕ナリ
花鳥ノ色ニモ音ニモイダスベカラズ
モノウカルニハタダ秋ナリケリ

あるといひてやすらひやまとことのてよ秋の
長をこそわすれてこゝろいづれもけ
てみれよやうりてえしそ菊うれ夕をも
孫をしわきまへぬ世をさうもれ内
あるとしれのおくれ心うほどうわ
れ菊のあとしうへきうし秋のあとしわ
うけてこつうあべの世をしそ海せ
てくよはんぜきんとこゝろおつうをいたくよ
うれ心よせ後べてんとまとまにに
くきこゝあはせどむげよこえてれいくく
まれてきんしうこゝあれば昔人は春秋

カヤ住リ
イツトテモ恋シカラズハアラネドモ
秋ノ夕ハアヤシカリケリ

こわきてこゝてんげいつとかきなるあ
やしとこゝてしゆふべそこうるきしなな
しこゝのよそこよしこゝあくれめぐれと
こどけなげよのれはけつしいとこゝなな
ふるえ恋びれこゝで
原 えしさバ長をこうこそ人こうれぞ秋夕ア
こゝ秋の夕見恋びこきおくしも行ち
しとまれよいづこのれいくあ心て
ぞと言しこうれ気多なるわけつそよえこ
ゆれこてこうこまれとくしもゆべしいな
そこうひとしこゝれけべこれぞいとこうこて

春ト云秋ト云

ツラヌキ人ノタメニハツラクシテ
ツラキハツラキモノトシラセン

とゞめてるしことてもわがれ心しわく
ゝうくらぶぞとゝ云へ人してうらなげ
きこゝろさゝぬのゆふうちまあうしきし心づ
きなるぞ云てあるりめるやたゝづひさ入
れるうくきなれどいなくこすうしらしと海
せ流めるあれまよこと自稱したよ心ゝうさ人てくくうそ
あるざんなれよいいと海ゝうわいくまりを流れなよ
ミツハレテハ
はゝうんとそれうあれぬうちきうう
海ノ法師ノ
はにかひこ海ゝうきうさ人ゝうらどすくくゝ完ゝう
人こみゝうしかじこ寄りてはれはとゝ海ゝ海連ラ云
つりざいひてぬゆうあれいそくくうあけめ

中原致時
梅ヵ香ノ梅花ニ白ハセテ
柳ガ枝ニカケセテシナナ

柳ゞ枝よさうれてうるいなこさ海あうんゆしと
ゆしゆゝうゝゆゝいよわわ流てごみしいり流
そぞゝうゝるゞあてうちらうゆ流
こうゝうとそくうけてらくくごうてを
流てゆ流かどをさんを流ゝうゝあるゞらなるこ
とよしゆゝうゝるゞふくせの流ありりうよと
柳ゞかゞうゝ云ゝうゝるゞれをひとにげか
きことなるわおそうゝうつしゆゝうきゝいお
かゝうまさゝうけゆどゝいゝ
ゝくゆゝうこ流のゆゝやゝうよ流弥もゆゝ
流りんと云ゝさ海そも流しゝうゝいゝうゝ

やうきこえし
をせ給へい秋の長とをうぐかよいて人
えうらしくやしうもぐしとれ心ひとつよ
ぬもつしうあやまりけよさんとをいと
をくようつれかくてたひとわしあやぐわ
ありさ給へ花の紫よ世の秋よ心をもたかて
しし長よ恋の書れあけうのよ心あめ給へ
ふしとをうよそあれ時こようけうう
本なの恋よ世そしれ心ご海るだう
れあそびなどしてたがるとあけてけて
うのいとあとをうげさ方そあさたう

らひいでそこしとをうとてけんぬ
さうぐをうやとこそ心ゴイうれるどう
をひあし給へ山里の人しいるどこえぞ
をうれど所せさとこ海さうれ分そわ
うう給こしいとをうこ世中をあらさあく
ううしとこうを気多ゴうとうさしんべさ
心やをく立いでくあけそうのそ海のいせと
しくて何のふでんの往生念仏ことつけて
わうう給へうをくまのよいと心そこ
けうう所のさ海よいとふとうぐんとあて

ぐるよ袁そびめ（原ワリキヲス）へしすてみるよりそ
したくうわりうれ（たくワリキヲス）ちぎりのさそ（又）ぐるはつこう
らぬをこるよゆくそてあぐるあるき（袁）花
多ゐれしぐら（原心）うらんうのいとこ（大井川ノテイ）ものげ（木）ものげれやるれ蛍よ
うるうるうぐ（大井ノテイ）ぐもものげれやるれ蛍よ
みえまぐふしおうし（原羽）うるそ（源浦ナドニヌクナラズ）ぬよ（ぬ）ぬかぐ
まぐうぬ（大井ノテイ）ぬぐうよあかしまうと
の流よ
（四五ニテノウキモ）いまわせうげるそれぬうぐ犬ハ男
れ（四五ニテノウキ心）男ノウキ心ぬやぐ（ニテ）ひさうよ人（羽）（四五ニテト今マハニテト色ノ）ぬそまぐ人
られ伏れとゆゆれぐ

古今
舞犬ノ如トハ身ノ俺ニキハ
ナビテ下ニモユルシナリ
ナ大シ思ハナシセキ
メシテキモイトシラセソメケン
恨うにきハソツナカ君
ノリソノ誰カウキモト
シラセソメケン
我ハウキ物ニテ
ナシ其ハ方コリ
ウキ〳〵ナレト云
ム

原源キ思ヲ其方ハシラテ舞犬ニヲサハカスカ
ぬぐうぬ（原忍）ぬぐうのぬ（原忍）ぬぐうのぬ（原忍）ぬぐうの

是ニ折ノ露忘ラレメ槿ノ
花ノ盛ハスギヤシメラン

北条ニハ宮以上五人アリ
槿女院宮　式子内女
桃園式子宮　相帝四女
女五宮　相帝四女
殺住北方三宮　女五宮ハ婚業母
入道宮　茨童也

然ルニ神来ニ賀茂ノ秋院ニ立玉ヒ、商雪長ニ父宮ノ服ヨリテ、ヨリ井玉フ、第本長ヨリ
伺ノ心シカケモフ人し

△朝乳　十九　哥ト詞ノ以名ク　源氏一九月ヨリ光源氏ニテアリ

槿ノ女院　父ノ桃園式子宮ノ失セ玉シ　女宮ハ一代ニ二度カハル　秋院ハ服ヒバリ玉フ

秋院しれいぶくうそ
ありあ浦ひまさこ
ご例の学ろ
れいこうひとと
ろしわしこと
けて実し浦ろ
ろろ　ふが月よ
わ流めろと
それ　そなし
うで浦　古院の
じごとあく

秋ニ五玉父宮ヨリ

槿ノ花　他所ニシテ　後ニ桃園ニ

重服ヒバ先ハ他所ニシテ　後ニ桃園ニ

桃園ノ女王　女三宮ニ　ニナ内侍

相童　桃園ノ女王　女三宮ニ　ニナ内侍

くつざくしまの浦
実にそれはあるべきこと
でんの西の人
ぞそこに行く
あれよりの心にして表よりけるこころ
なるみや射西しにてはいとも
老人亦宮愛
なるべきこと
しそこに
やしなの国かしこくかりごこされみこさ国
ふるとそ
そこそこに行くしまの人ヨリテ海ヲヨルトシ
これにて後よろづ心がそこ
うれしもうまのようとるみぐらえ

そこに行くとは
れでいよいよあるなりさいよこの海に行く
くらしらわこと
こにべく行くと
行くるとこへどもこ
れにて後こさ国
やうまし行くぞ
こにぬよまどい
やけようぞまて
ぐるいしなくて
いうしのれ国に

をもてなくこゝろ[illegible]わるくてあんなど学し
[illegible]とし[illegible]
けてもさぶめよ世とあるかぎりなりそみ
[illegible]すぐす命かぎりのうらやましさとあは
くはれどうくてしよりつゝ[illegible]
こびよるあんいわしいうれをみるうさて海
しうばらかしうしとあぼし給とう
ちわるくさ流ていとさうのうよ[illegible]
さ流よりうれわるとよ[illegible]
なりそやしとさ世ようろひわれいでおい
しうこゝろくおどろれ給をこゝぐ

[illegible]
[illegible]
あんいとうくにな[illegible]
をさわるもあ[illegible]
給れとるぐ[illegible]
しひてくのか[illegible]
くえ山ぐ[illegible]
れ給し年ぢの後[illegible]
給わと門の[illegible]
らぶくるくやとな[illegible]
なやうされにを[illegible]
ぐ[illegible]

トキケツ衣ノ玉八住ノ江ノ
神サビニケル松ノ梢ニ

[illegible]
めめ心ちなんとてし又かいれ三文うや
ましくさるべきこれいゆわそいてこそくみ
をり流をうらやましけれ思きを流めかしさや
うよそらひ流神ヒ神際シ年ニトモ里ヒ玉ヒシ
うぞそこう年こまわ流ひさし侍るひなしな
ましうばいまよろこまよ侍るまし居さい
るこせ流てとうしてげよ侍きこと実
流の方流れ流をみやと流れぐ九月十八日
るう赤載ル心そうへしことよみうきれて
のどやうるかわ流んれ流わさ侍うちし

[illegible]
くうひしく義うそえ強ひ流そで傍
なきやうなるを流なうれとうひ実ゆ
べうわうてやそ流こうわうわ流
くうあうう行るしどにひ多よみそよ
くうきれ末丁流そきうげ義よ凡か
侍うしく吹こをけうひ侍うしそこ
ううこういこうれで南のひうよいれう
せんじ多いやんして流きうそこ実ゆ侍
よわうくうこうこ心ちうみそれまへうかうし侍
びよ侍うう年月のうう遊義ノ労しそへうれ侍よい侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佳物語
君ハ今リスキ行出テ見タ
ニスルノナレル姿シ

なわさぬしうしの月よそへてしぬかくとはこひ
きいろ流て えもんし流てねとみなわなりや
ちわ 原 せきぐ 世世ハウたれハメイワクく六方ニテトフラフトし
なさこそ ヲカラズし
もひのたりよハ ヨモツツレナリ しかくそなうわさあわ
くれよよ 人ニヒヒ 源ノミニクキ ホリ 原路ノ つれとなよそとぐよ ヌしさ
ちべくやいもてなりとて出れかごわ 原ノホムルト 撰ノツレナキラスト ハ説ノ外し
ぬせきまそ例のあしあ ヨリカリ 世界美 何ナリテモ面白キ 世
おくさ 秋ハ ハ云シ 原ノ ラトサノ し
もさうぬの 撰ノ 秋ハ 葉めとし 物思ヒ父人モ 原ノ 世ヲ 原ノ ハ公ニテ切 原ヲ
しくも 原ノ 氏出ニテ 原ノ ラリ ハ念ノ れ 原ノ ハ文ナドアレ ラ ノ今ノ 撰中し
原ノ 首ヲ 思ふ
原ノ 思ヒソメし其 ノ
原ノ れ心をへか

ごも 原 出 雲 しう 原 心やまくてら出れ 撰ニ原ノイヤメ ナリテ
めるまて 原 孫ざめごらよ 原 ちけ原
原 早朝し チガメガチ 後し
こく ミ アケテ又ソロスノシセヘイラセテト云
ら 原 ごし れ中よ ごかの これ アリコ 後
よ ひまの ら られて ら なきこよ 咲て
白ひ とよ ら ら せ れ れ 撰
後ハ ナビキ 玉ハ又ラ云 原
けざ ら なわし 撰
キツヨスキツハリノん 撰
ちしる てら ハリ 共ニ面目ナカリシハイヤ ガミ玉トし 母 恵ん
久と ら く 哥ハ ニトし サリナカラト
原
みしの の 雲 帝木尾ニ徒奉リシ ニテ リシラミシラノワスラヌトス し
ひ 撰 わそれ れぬ ら の 原
ひさわ こ 逢ノスクルト 年ノトミテラズ 逢ノライノ ズし
んモトナシト 逢ノ労
ぬく人 ぬ ば の ひ ら し 後

とぢうわてさまわとも
うつしかどまし
やしの四ぢへよあぢつ
うやとあぢしく人
うなしいて安ゆしで、

撞

私てて雪ましまうぎ過ヤシヌラントアル心同心ノ奇シなスギルトシ
ふうあきうよりつあ
けうそへよつけてし
ありよのあしさ
うときこくけ人
のなよびうあそ

撞ノ花盛スルシラワレミヨンキトシ
撞ノウツラワ
撞ニヨモエス
撞ノ心
撞ノ心
撞ノ心

うちひ給へ（権ナ宮達ヲ云フ）ふ人ごのさしぬきこそ（原ホドナキ人ニモ出ギヤスナレ心ハミシテ原ニハコケナウアヤマチモセント）
のことをそうなりびきやそうなどいとの
まちもこひしくめでゆしとみやそれ
うこしぐるよこそよるくゐ（原ニ出ヒシテ）なれらしと今
（権若キ時ノ心）
くまのてしこれしよりひ見
（原ニ出ヒシテ）
（紅梅ノ巻ニ記キ事ニテ）
えそそうあさいまあよつけられ人うか
（原ヨリ権ニツケテノ文ヲ云）
どのありそぐさねしうぐてやうわな
（権ヨリ云ハク）
さうんかどんれぬいひとそぐうれて
（近年メテタリトシ）
らとけ給べされ気多もあけれどふツレナク
（昔ヲ今モ月シ心トシ）
ぐくおなのじさ夜あうれ心ぐへとよのくな
（権ノ）（原心）
くうめでそくしあうくしこまし給世

中よりまして前世院よ会ひよ（原ノ）
（でおんかめえあ）
なうにげかしぬれあそひかんなどい
（原ト権ト）
ひうとあいのうへけうへ変て三ぐて
（可怨ト）
（怨心）
こうわしもさやうなんとしあるで（原ノ紫ニ）
ていあがしてじと気うれどうつ
（原ノ月シツケテノミ玉ヘバ）
けよめとくめ変れ気多かどしれい
（原ノ）（チヨトニ）
（物思ヒカホ）
ぐそあぐれうし心うくまあくた
（権ノ）（コレホドニ）
く受てかうんとをけしなくなるれ
（紫ニハ）（サレユトノ心ウニ）
よひなのれうんよとおなのそぐよ
（権ニ宮ノヲナレヨシ文読原ト権ハイトコ）
やしう給へど受て（権ハ）
ことよしうわやんど

なくなりぬ（原）心などうてのかぐら
あなくしいかべいうかと（篠原）辛びのぬりてか
かどくらかぐぶくなくさすごよかる（ナラハシキテ）
ひてくよをけくしかへとかどくこれぞ
ぞうあげううきさて（一向ニステハシヒトシ）名はかきさ海よい
（原）ものかしぬもぞ（ラヤリハムヒヒ）ぼノメダヨ出シテツシヒ（ハヲナヅリヒヲ）
そのかれぬつう辛びめじつびいかづ
うきさうさよそはあめるどさ海ぐよ
ふみぐれぬよ（ナシザリイコ）ぶつしさことそうちそじ
かどけくうぞ（大カタノ）実しぬへまやよ（篠ノ）（ミツトノ心）
しとあはせぐ多（原）もしぬれどそうち

里人ノコト後野ニシ
ケリトヒカレユケ君ニ
アハサラメヤハ

うちかぐちよう（サトク心ハ紫ニミシラヒジトシヤ）
くといれ文（雅ノ）とうさぬへじげ（慈心）へれしいし（サヤノ人ニシハソゴトニテナキトシ）（ハ文シヤノニシヒフ）
かうるあじきあうりあ多ぐうよそ（ケヒヤヒリチリトモノヒハヌハツリトシ）
めぬへうとうしくれしこあし（原）ぬ
多（原心）つくうんわさ（十月十七日詠歌ノ故ニ神夏モ停廃スベシ）かどしこありてさうく（左右式ヲ失ヲフ）
うきよつれぐと学ひのまりて文れ文（廿五）
よ何のらうさ多（原ノヒニミテ）あり（面白ん）言うちりてえん
あうそれぬよあうさ海よあれら
れでごもといよくうきさめぬて心とよ（雅ノ良サシミメリ）
ぬ（紫ツツクロウテイ）ぬさうしぬへれじゃいとぐ心よたう
しくいそぐとみしうわさ（原）すごよまうわ（紫ニ晩ニ詠見日記イトヘサシ）

そもそも男し流せるの文れるやうしくし
流なりとうるひやしよるんとてけいわ流
れどみしもやり流しぞわうえをとそのそ
びきぐうそうおくそうそじめのぐなり
ぬと原汀のやうくれ作ミカケモてさ
みしなりやうはやきぐ衣のはまわめなれみぐ
てあくあばうるまくやとそこぐえをくを海
ぬいぐるどぞ男し流へぐなれゆくそげよう
きことあはうわ作れとぐわそうらそし
きてやり流るこ原心紫ウそ出れみらぬう
れど文よれせうそこ男し流てげれぐ出

次ノ浦ノ塩焼衣ナユヘバ
ソラキモノトヤヘドシナレラン

七行ハ浮ナレバヤ次ノ蜑ノ
塩ヤキ衣ニドシナレラン
次ノ蜑ノ塩ヤキ衣ナレ行ハ
ウトクノミヨシ成増リケレ

流ひぬ慧心中りくるこしもなわりうせをうるる
ダてそぐ作るとるとてみ流
てにびしうれぐぞもなれどえあひき
あわこのあくかうくえて宮ひ
わよいうぐくえをれそぐとこい
じてまこ一とよう離まうわ流ぐと思び
あへぞあばやうれ原ぐんかどあびやうなう
ぐわして原汀うちうあのはりさくぬうさ
流ようありよ作わやもぐの文の心がそ
きさぬうそぬしも求ぐの文よ弁ひい
かづ考てうと今くるむるどそれ

[illegible]しことをわるいとあるべしと人ごと
しの[illegible]ものなどいでやれ好色文そこの心のあるべ
ぞなるべきぞなるべきぞなるべきことと不意れ
し出きるんなどたびやさあるべ文五 祇園ノ宮中ノ文ト
小あり雑人典その人ごとに常ニ出入ノ人
[illegible]ん[illegible]ろぐしくれたにけるあるべきと
くちをくいたれたれて[illegible]ふしもわれたるべと
[illegible]ふしもわれたるべと
[illegible]ろをおどろかさてけれこうど
ありさむげあるけるのうせずさ出きこ
てここすもえあけやらぬぞこれらあれお

のこるこあるきなるべしごかくと引て
[illegible]のいとくさびよりたるべのぞこう
[illegible]を義と実しめて明日[illegible]と覚え
[illegible]よこそのの[illegible]よりたるせられて
[illegible]を見てるそめれやどりとえこそてず
未[illegible]よし心をようつそよと覚えて
[illegible]らぞさしよ
いたのすりよりざがあとしそぼし
君ある星とあれしうるのぞひう
くひこうろひけていわ[illegible]の[illegible]
何のれ[illegible]実れよあることものそこと

となきうちこしかの宮ばらし所へと
つくしおどろうぶ移りてさよ文もいのくび
うらしまれて女房よひまどひをり給れどぬし
えもしやらぬぞとの給かどもなくいびきと
うこそしてぬどとそれど原心ろこびかがら
ち出給へとそうよ又いとあるのうさこそて
ぶきうらして紅葉ガ三ツ原内侍ハ中ハヨジリモドシ
知しらぬ人とゆめのしきこうしさろと
世よあるはしもそも人をあくねるん
院のうへくとそ祖母ト云シ原内侍ノ異名ニテアリ
かのり出るぞ原心原内侍ハ中出入

ひしくとはまにあわてはなの内でまてあん
とこあるとそしうどいあであんさらぬ
ちろ法てざわつ原内侍
世のことハ思むしづるわるわりをもろう三代ダル
よこ出るし心がそこようりされ原内侍
あやなの使ナキム世俗ニウバヤシナシ心ニシバシト内侍ノ云フウテ
とてそわの法へられけをひよいとど言えむつ原内侍
けりうるまわしさ法よりてかし原内侍
てうそけ口ノニガムし
ざんといれそうへ
ろまぐゆさよ原内侍

結遺
聖徳太子
ミナテルヤ戸坂山ノ飯ヲウヘテ
コヤル旅人哀ヲヤナし

身ヲウシトイヒコシホドニ今ハ又
人ノウヘニデナゲノ氏ナ

よるとはなくこまれぬしらるるこうれも義
なるわすさうわよっどうせれ更衣あるを
ひしそらなくぬ行ひあるいうひあくてて
ちなるこのようさぶす
文かどのれ（芳華門ニテ秋ノ心）ようひしよ物とれしあば
さうしよる帝の（内侍ガ）の羽ものそあげさよ
（キツハリトヒメ人ガ）四ら人かどしめしうなくみしし人のいささこ
きわてのどやうよとこなひともらし
てそぐうろふ孔雀べてきどあけさせあり
と受そよ（芳華ト秋文ト思）衣なるけ（侍ハ）と心（侍ハ）ときめき
よるひてわやぐ

（図章）親ノ親トヲヤハシカハトヒテノミ
我子ノオミハアラスナリケリ

内侍（帝）
帝あれど（子ヲモメリ親子ノ契シ）そわそれしよ（ヤヤヤハ祖母シ）ばうとばと（加重ノ
あやとういひくそこ実ゆれど（原心）と（原ガ）ひらて
（原）分をくて後はみよ（コモ子ヲヤメリ）せて（後世ニモヤハ忘ニシトシ）あやを
（内侍ハ子ニナリテヨミ）ありやとのしさ枝やや
分しどうよで実しそべきとそられぬ
（慢）雨ありてよいこうしし（ヲ只）知れどいとひ実
えどかあんしいどとそひとまふてな
ありさぞ月さ生てうそうれもわ
者のひわよひて中くいて西日さよ
しうあ（原心）なりつうかいてくの心（ヒカリん心）さうし
（内侍ガ）
（松尾ヨリ引）ようぬりのくよしひとうさてしとあば

松尾ヨリ：入立ニジキ物
老サノチカウシ名ルト
ニハスノ月ト

今ハ雅忠ヒメナト計シ
人ツテナラテ言シモカ

道雅

しられておもしくるあんこよひしいとまあ
やるよおしられてひとことにうるとも人
づてなるでのおもてせんとそこあるあみも
せんとおもうらしてせめ字し給へどしう
和し人しわうやうよつこゆうさしうわしせよ
ごと古文あどの心よりなはしうわしと
れあるまじくちづしと云まてやに
しをよのそ恋よ
どうてひとを忘しいとまぢかしんとれ
ぢてさうこうごさあされ心なれてあ
さまうれしと云字し給へすごよえ

（原）
（槿）
（槿）
（槿）
（原）
（槿）
（槿）
（原）
（槿）
（槿）
（原）
（槿）
（槿）
（原）
（槿）

住モヒキヤリシ所
（原）
（槿）
桃園
槿出典ハ六ノ年ヲニ
年ノ
若キ人ハ好色ヲモエルスン
（槿）
（槿）
（槿）

ぬやうよ心しらでいで汝しいでとわらく
ゑさ心しらし汝へ（原羽宣旨ナドニ歌ヲ）世のうつりよか
ひとめぐさ（原ヒ）ゑさ海ものしら汝あよゆめくい
さ（原イヤリヒ同文）ゑ（原ヒ）かどしもあれくゑやとてせちよ和
さめさうひ汝へ（原撰ノ芳房ガ名）ゑ（原ヒ）ゑ（原ヒ）ゑ（原ヒ

せのくれなゐさうびかを見てあはれとおもふ
けしきをうらやましくおもふ人のもとに
れ心づかひしてやらんとこゝろをれ
こしをれいたゞきなんどいはまほし
をんどひとりねをしてとうとく
ふくこゝろやれうちひとりなるわびまよ
さびしうあのでしきくの会はれ心をつく
実し給へど落人心をとゝめゆるもひとろ心
とうるおしとぐいあかぐらよ見ていてにて
しあるもどけれあるこのうれ
まうけてやしろんしにはかしくげまうく

アリヌヤト心ニガテフアヒニナバ
メハフレニシキ一ニテノメニキ

原我れ見し
人のれにをうるよれあるかく
ぬをふくゝ
ぢわしやあつあれて
ぬさうてあるれ
しうけをせのもどこ
ありうんいるよく
しとれ心うごきて
れをあ
めへどいうぐうちこば
ゆやとて何なるめ
れをそれぐとうき

文三四大ロニナリテ
アリツハウ
表列
原心
アダナル心ノケモ
ミリツクニモ
フトシ
イツハ様ヲチヒカサントノん
原ノ戸中
様ニアラスハ
離
初ハガコトノヤウニテ次ニ
ヒテ次ニ
原
消
様

しらぬ人しのびつゝまかしきれあるひあり。
文(原ハ)なれて後(後)人のいとさうぐしげよれ
こせと云てしらし心ぐるしうみなる(水上文)
さおとゝしぬし流(流)で(詠)ゆづる人なきこ
とたゞけさよあんは羽のさえまるゞとみか
らくぬとよ云そ(紫)ゝんしとゝわゝ長あれど
今ときわゝし心のゞど(ゆゝ方ゾ)うよなばせかとなび
流ひらあし(たゝ)ゞいとんやりしあくんれ
心しこゝてぬさ海よゆ流そらうけれ
おゞまゝ(明ニテ髪トチツム)れしうれひさいゞこひさけく
ろひ流人どいよ(美)くそむきてゆも実し流

そゞ(原ハ)ゝてくわゞび流人ふたゞあして(ロレハナラハナヌ)
しなしうゞとてつあきよにくは
で心(紫ニ)をうくしわちらきなのわゞやとう
もおゞあ流(原ハ)流院よ(枕園カシモフル昂)ゞと実ゆや(中ノ)
りうしひゞひうくあつれていともてい
あれうことゞよをものづゝみ流ひてん
昔うわこよなうけ(原ニツクヌハナトシ)どとそれ心だゝあうを
さうぐゝきありくゝ(モノナゾシキトキハ文ナドヤトシ)ゞかしで実しか
やまそよう(種)こしつれぐよゆ流前
あれゞう流さうのれいゝ(アナタ)ゝあどまわ(真実ハナキトシ)
くゝさう流ゝしぬとくゝあんゝ(シホドイトハ原ニキセモラズキト)なあ

元禄

イサカリテヨキ明ニテ冬ノ月
春ノ花ニモヲトラサリケリ

こしもうれぬべきことやいうらめ
さうてのちはこ(休宅)ぞありしかをり(折)ぬ(ぬ)ど
日ひとひなぐさめ(慰)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ

貪生　ムサボル心歌

宮ノ：珠ノトミル雪ノ山
トコロ〳〵ニ降ニケルカナ

ほいとけどやうなるわらいさいわらこそげて
ちいさいこそげて
ちいさいこそげて
童元也　ツナガニシキ
ちごびちちゝ
ちゝ
ちゝ

そこ[illegible]わづらしこゝハ久ハてゝ[illegible]こゝけそひてうどくし
されもそこ[illegible]ハ[illegible]
れ心をへたもまこと[illegible]
もさこよ[illegible]
心づひせらべ[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
[illegible]

や、東れ院よりおくられける人の心ざしを月かくれ
らくるけれさ（人ハサウハナキモノクモラン）くしきこゝろえ（世間ノ人ヨキハアラスセヲ）ぬるのと
きうさよりつけての心ぢせ（花キルノ音）人ようわく、みそめ
しうわ（今ハ原ト義ルト同位ニ）おもゝ（ノ）ようなけきまつげ（ノ）ようお
りひてをさめうしよりいまもこゝろてしよそし（ノ）ガイミ
くべくしもぞふう義とゝ侍りなど古
今れ（原ノ義ノ上ト）ぬるこゝろよ東ふけゆく月ようをを
てをけうよ面白しせえ
笠 氷とらいしゝ海のうちをりかもゝ（ホ）ミ元をせ
月のけぞおぐ（ノ）ぐ（笠）ぐてをみ（ノ）ぐてをうこ
つき海つ（原心）ぐ行ぐうわおくうりいしけなわ

（ナミノキヤ）なぐ（西ノキヤ）おしやうれ（京ノ）意ゆゆ（ノ）人（ノ）のおもけよをと
ぎてをぐ（ノ）ぐ（ノ）ぬ（ノ）れ（ノ）ぐ（ノ）をいうわ（ノ）れ（ノ）心もうわ
ふりけべしをれうら嘆うよ
（原）つきつめて昔こゝろひしき言もの（ヨハ休字シ只雪ガリシ又統夜）
そうをれうをひうゝ（ノ）ひてし文れ（ノ）ぬと（ノ）義（ノ）と（ノ）（ノ）
とゝつてはものごとうわ（ノ）ようを義ともおくは
のようをうをと（ノ）いうぐ（ノ）くうこと（ノ）ぬ（ノ）れ（ノ）ぬ
ちうこうて（ノ）ぬしうぐ（ノ）とのれ（ノ）（僧都物語）ぬとうさ
ものくれ（ノ）ぬ（ノ）ぐ（ノ）ぐ（ノ）ぐ

てゆえのこいなどとくそとの給よなどろ
きていらでなはあしくひものとこだ所ゐく
さもげいとさうへて用しおだれ出よ行今し
いらづくめしくしく給ゆえいるゐることまろ
と云そまうちもうづろでり給て
とけて初ぬ弥生さびしさそれ来よ
しそばれつく蓑れうづこゆこそひのそ
ゐるとあばそようくゐさ給てきといか
くて所ごよれぼ弥ゐどさそ給ゐす
きめうを給とうるもさそあばさるる
むしをこゐひとを給ひろげよつころ

げゐりしれありさ阿ゐ〻ひひとつとて
でけせのにごゐるとそ〻ざ給そざんとれ
此心を山〻く云てうづこうよいうづくゐ
しれを所よわざをてきる人ゐさせう
いるおそそうんをうひ実しまうで
つこうもうもわ実しでやるどけくくとお
ばそせうれれにゐるようわしてゐるよわざをし
ろ給ろんいんとづあ実けべしうもれ
心のをばけ給やあんと云てつむか
どよゐうづ仏を山ようけて初へどまろ
給ゐなづそよとそい

原

あきくれはよしてとうげみ
ぬるの瀬川すゆやはじ
ろとや

三瀬川